

# 令和3（2021）年度 事業計画・収支予算

（令和3（2021）年4月1日～令和4（2022）年3月31日）

歴史街道推進協議会

令和3（2021）年6月

## 目 次

令和3年度事業計画・収支予算（案）の概要	…… 1
Ⅰ. メインルート事業	…… 3
Ⅱ. ネットワークエリア事業	…… 4
Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業	…… 5
Ⅳ. フォーラム・展示事業等	…… 7
Ⅴ. 歴史街道倶楽部事業	…… 8
Ⅵ. 広 報	…… 10
Ⅶ. 各種の受託研究・受託事業などの実施	… 12
Ⅷ. 協議会運営	… 12
令和3年度 事業支出予算（案）	…… 13
令和3年度 収支予算書（案）	…… 14

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、5月末までのイベントは中止または延期となっております。また、6月以降のイベント等も、状況により中止・延期になる場合があります。

## 令和3年度事業計画・収支予算（案）の概要

第10期中期計画の初年度にあたる今年度は、新型コロナウイルスによる新しい常態（ニューノーマル）を前提とし、WEBやオンラインによる多岐にわたる情報発信や少人数で楽しめる仕掛けづくりに注力しつつ、次の取り組み方針のもと、各事業を下記の通り取り組んでまいりたいと考えております。

1. 広報活動の更なる充実（30周年事業の活用）
2. ターゲット層の拡大（若年層の取込み）
3. デジタル化施策の導入

### 記

#### 1. メインルート事業

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指しております。

具体的には、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、メインルートを結ぶ地域の関係者間の協力体制の強化を図り、各地域間連携事業と「歴史街道スタンプラリー」を一部デジタル化して実施してまいります。

#### 2. ネットワークエリア事業

南北近畿エリアの活性化と「世界文化遺産」地域連携会議等との連携を事業方針に掲げ、WEBや会員誌『歴史の旅人』、後援活動等の広報活動、歴史街道倶楽部と協働した各地ツアーの実施により、ネットワークエリアでの情報発信を行ってまいります。

#### 3. 日本文化体感プログラム事業

新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けるJICA向け研修については、上期に2本のオンライン開催の申し込みをいただいております。下期にはオンライン主体ですが、更なる展開を見込み、年間10本にて計画をしています。また、来年度以降の中国からの教育旅行受け入れを目指し、日中経済貿易センターの御協力の下、中国からのインバウンドに強い旅行会社と提供プログラム内容について構成をまとめていきます。

7月～11月に実施を予定している首都圏留学生向け研修（万博基金助成金）については、新型コロナウイルス感染予防を十分に施したコース作成を行っており、感染状況を見ながら参加者の募集を始めてまいります。

高校生向け研修（子どもゆめ基金助成金）については、各自治体とその地元高校と協議しながら進めてまいりたいと考えております。

なお、首都圏でのガイド向けセミナーについては、昨年度同様、オンラインを活用したセミナーを12月と翌3月頃に開催いたします。

特別企画の教材開発・普及活動「歴史街道・タイムスリップ号」の造成（子どもゆめ基金助成金）は、計画スケジュール通りに推進してまいります。

#### 4. フォーラム・展示事業等

地域にある歴史・文化遺産等につつまる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を

積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示すため、今年度も引き続き実施を計画しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、実施時期や実施方法を検討して参ります。特に、その影響を大きく受ける歴史文化遺産フォーラムに関しては、共催団体と実施に関して慎重に検討してまいります。

## 5. 歴史街道倶楽部事業

今年度も、歴史街道計画実現のための応援団として、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動を計画してまいります。新型コロナウイルス感染症の影響で、一部イベントについて中止または延期せざるを得ない状況ではありますが、倶楽部会員のニーズを吸い上げつつ、イベントの準備を行ってまいります。

会員誌『歴史の旅人』につきましては、誌面のさらなる充実を図るとともに、関西圏および首都圏の公共図書館や関係団体の文化施設、大阪府下の公立高校等に寄贈し、閲覧誌として多くの方々に目に触れるようにすることにも引き続き取り組んでまいります。

また、他団体との連携を図り、歴史街道推進協議会30周年記念キャンペーンを通じた新規会員の獲得と、会員誌・イベントの魅力度向上を通じての既存会員維持に尽力してまいります。

## 6. 広報事業

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する広報活動に努めてまいります。特に今年度は、協議会設立30周年の節目にあたり、大きな広報機会と捉え、広報活動のさらなる拡充と若年層の取込み等ターゲット層の拡大を図ってまいります。

30周年事業を活用した広報活動の更なる充実を図るため、Instagram 投稿キャンペーンの開催や歴史街道ガイドブック（キャラクター版）の制作・発刊、歴史街道推進協議会設立30周年記念フォーラムを開催いたします。

また、ターゲット層の拡大のため、若年層への積極的なアプローチ施策として、マイクロツーリズム（まち歩き）の推進やフォトロゲイニングイベントへの協賛、性別を問わず若年層にも人気拡大中のゲームオペレーション（「謎解きゲーム」の歴史街道版）を試行し、歴史街道事業領域広域での周遊を目指してまいります。

## 7. 令和3年度収支予算（案）

事業活動収入は、新型コロナウイルスの影響による会費収入や広報協力金収入の減少、倶楽部イベントや日本文化体感プログラム研修の見送りによる減収が予想される一方、日本文化体感プログラムにおける助成金の獲得やゲームオペレーション（歴史街道版謎解きイベント）の参加収入を見込み、前年度予算比217万円減少の6,532万円といたしました。

一方、事業活動支出は、新しい時代に対応するべく広報活動の更なる拡充とターゲット層の拡大、デジタル化施策の導入を図るため、広報費として、スタンプラリーのデジタル化や30周年事業、助成金事業等で前年度予算比1,038万円増の4,768万円を計上し、予算比719万円増加の7,290万円といたしました。

結果、事業活動収支差額は▲758万円となりますが、マイナス分は繰越金でカバーすることとし、4,282万円を予備費支出として計上いたします。

以上

## I. メインルート事業

### (事業目的・方針)

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指す。

### (事業項目)

#### 1. 地域連携事業

##### (1) 伊勢～飛鳥間連携事業

- ・日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会や沿線自治体などと共催で、新型コロナウイルスの状況を考慮しながら街道ウォークや講演会などを実施する。

##### (2) 飛鳥～奈良～京都間連携事業

- ・エリア内の会員団体などとのワーキングを開催し、これまでの講演会やリレーウォーク、旅行会社との連携事業を振り返りながら、本年度の活動テーマを検討・企画する。

##### (3) 西国街道連携事業（京都～大阪～神戸間）

- ・エリア内の会員団体などと連携し、令和2（2020）年度に「道標」を盛り込んで改訂した「西国街道マップ」を活用して、秋以降「魅力再発見 西国街道」事業を展開する。

##### (4) 京街道・淀川左岸地域連携事業（京都～大阪間）

- ・京阪ホールディングスや連携地域の自治体の協力を得て、マイクロツーリズムの試行・推進するイベントを企画調整する。

##### (5) 観光ガイド組織との連携事業

- ・コロナ禍の中、大阪・奈良歴史街道リレーウォーク実行委員会をはじめ、歴史街道エリア各地の観光ガイドの活動状況を見極めつつ、秋以降、各地の観光ガイド組織の活動について情報を収集し、ホームページなどを通して広域に情報発信してゆく。

予算 1,700 千円 (R2:1,670 千円)

#### 2. 地域共同事業

##### (1) 歴史街道スタンプラリーの実施

- ・自治体および沿線5私鉄の共同事業の一環として、歴史街道の周遊性促進・寺社ネットワークの向上を目指す。令和2年度から実施している「歴史街道スタンプラリー お城めぐり編」を継続実施する。
- ・秋以降、デジタル化したスタンプラリー（アナログ方式併用）を試行する。

予算 5,500 千円 (R2:4,000 千円)

## II. ネットワークエリア事業

### (事業目的・方針)

1. 南北近畿エリアの活性化
2. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

### (事業項目)

#### 1. 関西を南北3つに分けた連携推進＝南北近畿の振興

事業項目	紀伊山地の霊場と参詣道	北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊
1. 地域整備・まちづくり・ルート形成	各地事業のフォローアップに取り組む	・各地事業のフォローアップに取り組む ・日本風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」の活動充実を図る
2. キーパーソン・ネットワーク	「紀伊半島交流会議」メーリングリストを通じた情報交換に取り組む	「北近畿・琵琶湖 食と歴史の回廊を作ろう会」メーリングリストを通じた情報交換に取り組む
3. 地域施設等ネットワーク	観光案内所（33か所）や道の駅等とのネットワークの維持に努める	観光案内所（33か所）や鉄道駅、博物館・資料館、伝統的建造物群保存地区とのネットワークの維持に努める
4. ツアー	歴史街道倶楽部などと協働し、各地ツアーを実施する	
5. 広報活動（イベント・シンポジウム・展示）	会員団体、関係団体が開催するイベント等への協力（後援活動等）	・「琵琶湖さざなみ街道・中山道」の活動におけるイベント・シンポジウムへの協力 ・会員団体、関係団体が開催するイベント等への協力（後援協力等）
6. 広報活動（新聞、雑誌等）	・会員誌『歴史の旅人』や鉄道会社パンフレットなどへの情報発信に取り組む ・マスコミを通じた広報効果を増やす ・当協議会HPイベント情報への掲載	
7. 映像	ケーブルTV番組の制作や旅の星映像の蓄積に努める	
8. HPでの情報発信	11言語HP <a href="https://kiimountainrange.com/">https://kiimountainrange.com/</a>	10言語HP <a href="https://www.rekishikaido.gr.jp/worldheritagejpn/kitakinki/">https://www.rekishikaido.gr.jp/worldheritagejpn/kitakinki/</a>

#### 2. 中央部（メインルート以外）

播磨地域、南大阪地域を中心に、会員誌『歴史の旅人』や鉄道パンフレットなどを中心とした情報発信に努める一方、同地域の会員団体、関係団体が開催する事業に対し、後援を行い、後援イベントチラシの配架協力、当協議会HPイベント情報への掲載を行う。

#### 3. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

遺産毎の事業推進、国への要望活動継続等を連携して行っていく。

予算 400千円 (R2:700千円)

### Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業

#### (事業目的・方針)

本プログラムを実施することで、日本の歴史文化に親しむだけでなく、国内の研修生にはグローバル人材としての教養を身に付けること、また、海外からの研修生には日本人の考え方や行動様式の根底に流れる歴史文化的背景を理解してもらい、日本での研修をより実りあるものにするを目的とする。また、本目的を実現するために、講義コンテンツおよび体験型活動の充実、多様なニーズに対応するプログラム提案力の強化、実施体制の整備に取り組む。

#### (事業項目)

##### 1. 日本の歴史文化を伝える講義コンテンツの充実および体験型活動の充実

- (1) 日本政府が招聘した外国人に対し、英語のみならず、その母国語で日本文化を伝えるコンテンツの充実
- (2) 社員・職員向け、学生向け、一般向け等、研修目的にマッチした講義資料の整備、および体験型活動の拡充
- (3) 講義資料・現地体験内容のこまめなアップデート等定期的な講師・ガイドミーティングを開催し、講義資料の改善や情報共有を実施  
(年2回(提案→審議→共有)を目途に、必要に応じて追加開催)

##### 2. 顧客の多様なニーズに対応するパッケージ(講義と体験型活動)提案力の強化

- (1) 海外(インバウンド)向けプログラムの充実
  - ①国際協力機構(以下、JICA)が招聘する海外からの研修員に日本の歴史文化を紹介するプログラム(講義・現地体験)については、JICAおよびPREX等研修事業者との連携を維持し、コロナ禍の下、オンラインでの開催を含め年間10件を目標とする。
  - ②関西観光本部、大阪観光局、日中経済貿易センター、旅行会社や財団等との連携により、海外企業の視察・研修旅行やインセンティブツアー、海外の教育機関からの教育旅行等への本プログラムの組込み提案を積極的に実施する。  
中国語圏からの企業研修、インセンティブツアーへの組込みを目指し、具体的な研修プログラムを開発し、訪日旅行取扱会社への営業活動を実施する。
- (2) 国内向けプログラムの充実
  - ①企業等におけるプログラムの実施  
企業・団体向けの研修や体験会の実施拡大を目指し、継続的な新規開拓を進める。  
海外から研修生を来日させる企業も対象とする。(目標：新規開拓1件)
  - ②大学、高校などにおけるプログラムの実施  
2025年の大阪・関西万博開催時に国際交流の主役として活躍が期待される現在の大学生、高校生に向けたプログラムを積極的に推進し、国内において、若い世代の国際交流を積極的に後押しする。  
・首都圏留学生を対象に関西での日本の歴史文化を体感するプログラムを7月～11月に実施する。(日本万国博覧会記念基金助成事業)

◎熊野古道を巡るルート（前年度計画延期分）

◎歴史街道メインルート（京都～大阪～神戸）（前年度計画延期分）

このプログラムでは必ず関西在住の観光を専攻する日本人学生にも参加を募りルート設定やガイド体験など、関西の魅力を再発見し、自ら発信する経験をしながら留学生との交流を行う。

- ・関西の高校生の国際交流を推進すべく、関西に留学している大学生、日本語学校の学生を交えて歴史文化を体感するプログラムを実施する。

◎開催予定テーマ

－明日香の史蹟での高校生と留学生との交流（子どもゆめ基金）

- ・地元高校生たちが地元の魅力を再発見し、案内するルートや内容を自ら企画し、プロの通訳ガイドの意見を参考に外国人に伝えるための英語の表現力を身につけ、外国人を案内しながら交流を行う。

◎開催予定テーマ

－堺の魅力を地元高校生が英語で案内（子どもゆめ基金）

－大阪の魅力を地元高校生が英語で案内（子どもゆめ基金）

### ③通訳案内士、一般向けプログラムの実施

- ・関西の魅力を伝えていただく通訳案内士への情報提供を目的に、関西観光本部と共催で、オンラインを含め、本プログラムを展開する。（12月～翌3月に2回程度実施する。）

## 3. 実施体制の整備

### （1）講義講師の育成、人材確保と多言語対応力の強化

- ・講師7名（内部2名、外部5名）体制にて継続運営中
- ・講義言語は、日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語を常時対応
- ・講義資料は、国連公用語を軸に翻訳版を整備  
常時更新（日本語、英語、スペイン語、フランス語、中国語）  
必要時更新（ロシア語、アラビア語）

### （2）会員企業・団体、地域ガイドなどの協力体制整備

### （3）ガイドのレベル維持に向けた通訳案内士との協力体制の強化

## 4. 日本文化体感プログラムの積極的な国際発信と国内広報

### （1）フォーリンプレスを通じた国際発信

留学生との交流プログラムでは、参加留学生の出身国プレスを主な対象とした広報活動を積極的に進め、プログラム開催地の知名度向上に資する発信を行う。

### （2）地元紙を通じた活動内容の周知

プログラムを実施する地域の方々に向けた発信を行うことで、協議会の活動への理解を深めていただく。



- (3) WEB、SNSを活用した発信（協議会HPの更新とあわせて実施）
- ・事業実績の紹介
  - ・フェイスブック、ツイッター、インスタグラムを通じた即時性のある英語発信
  - ・既存コンテンツの活用や新規SNSを活用し、中国語圏での発信強化
- (4) 展示などを活用した発信
- ・道の駅、歴史街道iセンターを活用したインバウンド向けPR展示
  - ・地域のガイド団体との連携+全国通訳案内士との連携  
メインルート6拠点におけるガイド講習会の実施

## 5. 特別企画

教材開発・普及活動「歴史街道・タイムスリップ号」の造成(子どもゆめ基金)

- ・日本の歴史を時代順にたどりながら、歴史上の事象と実際に訪問できる場所、そこに残されたものを楽しく理解できる「タイムスリップ号」のページと、その場所を訪問したくなる「映像コンテンツ」をあわせて視聴できる内容とする。
- ・日本史の教科書で学ぶ出来事、人物、建物の由来を歴史の順を追って、興味のあるところから調べることができるタイムスリップ号、現在も訪問することができる様々な発見がある現地の様子をあわせて知ることができる映像、行きたい場所か知りたい時代か、どちらからもアプローチすることができる構成とする。

予算 14,124千円 (R2:9,000千円)

## IV. フォーラム・展示事業等

### (事業目的・方針)

地域にある歴史・文化遺産などにまつわる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示す。

### (事業項目)

1. 大阪府立中央図書館共催講演会&展示  
6月30日(水)～7月25日(日)  
「聖徳太子1400年御遠忌」をテーマにパネル展示を実施  
実施期間中2回の講演会を実施予定
2. 歴史文化遺産フォーラムの開催(文化庁地域文化創生本部、関西広域連合共催)  
関西の歴史文化遺産をテーマにフォーラムの開催について共催先と企画・調整等を行い、実施する。
3. 紀伊山地三霊場フォーラムの開催(紀伊山地三霊場会議共催)  
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をテーマにしたフォーラムの開催について共催先と調整する。

#### 4. 各種展示

(1) 「親子で楽しむ宇治茶の日」展示ブース出展（開催未定）

(2) 道の駅での展示

※上記以外でも関係団体などの依頼に応じて、適宜検討、企画、実施する。

#### 5. 子供向け(小、中学生)プログラム

##### ・目的

- ①次代を担う子供たちに日本の歴史や文化に親しみを持ってもらえる
- ②地域の歴史文化遺産を知ってもらえる
- ③生涯を通じて歴史文化の現地を旅してもらえ（現地に触れたい）

##### ・開発

- ①奈良教育大学などの教育機関や地域の文化施設、観光ガイドなどとともに、新しい企画を開発し、試行する。
  - ・新型コロナウイルスの影響を考慮しながら、奈良教育大学連携（親子プログラム）を検討していく。
- ②自治体などで実施する事業の情報を収集し、新企画開発に活かすとともに、データベースの蓄積を図る。

予算 2,485 千円 (R2 : 2,750 千円)

## V. 歴史街道倶楽部事業

### (事業目的・方針)

歴史街道計画実現のための応援団であり、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動に注力する。首都圏での認知度向上・会員増を目指すべく、首都圏における情報発信・活動を継続・強化していく。

### (事業項目)

#### 1. 会員誌『歴史の旅人』の発行

(1) テーマ、地域を選定した特集を設定し、春号、夏号、秋号、冬号の年4回発行。

(2) 会員誌の有効活用

より多くの方々の目に触れ、見ていただくことができるよう、公共図書館や関係団体の文化施設等への閲覧誌としての配架先拡大を図る。本年度は、首都圏や中部圏の公共図書館他に加え、次世代を担う若年層への教育の一環として、大阪府下公立高校図書館での配架を目指す。

#### 2. イベント

With コロナを前提に、感染拡大防止に細心の注意を払い実施する。

(1) イベントの実施

令和2（2020）年度に立ち上げた「歴史ものがたりセミナー」や会員誌の特集地域での「歴史のまちウォーク」など人気イベントの継続実施に加え、伝統芸能鑑賞会や「五感で体感！にほん文化シリーズ」（近鉄文化サロン共催）な

ど、旬のテーマや会員のニーズに沿った、「歴史街道ならではの」のイベントを実施する。

(2) オンラインセミナー等の実施

新型コロナウイルスの影響により外出を控えておられる方々や、全国の会員が気軽に自宅から参加し楽しんでいただけるよう、オンラインを活用したセミナー等を実施する。

(3) オープンイベントの実施

新規会員獲得につながるよう、会員以外を募集するなどオープンイベントを実施し、参加間口を拡大する。

(4) 首都圏企画の継続開催と強化

奈良まほろば館共催セミナー、伝統芸能鑑賞会、歴史ウォークを継続して開催するとともに、新たな共催セミナーの開催などで、首都圏での認知度向上と新規会員獲得を図っていく。協議会会員団体の東京事務所等に働きかけ、施設等での協議会情報発信を依頼していく。

(5) 他団体との連携

近鉄文化サロン、近畿文化会、奈良まほろば館との共催講座に加え、他の会員団体とも連携を図る。

### 3. 会員増強

(1) 入会促進キャンペーンの実施

歴史街道推進協議会設立30周年記念事業として、年間を通しての入会金無料キャンペーンを実施し、新規会員の獲得増を目指す。

(2) 特別賛助会員募集

より深く歴史街道を支援していただくため、継続して特別賛助会員の募集を行う。

(3) イベント会場での会員募集

歴史街道推進協議会および協議会会員団体が実施する講演会、展示、ウォーク等の会場で会員募集を行う。

(4) 協議会会員団体における各種媒体での情報発信、入会案内チラシ配架、OB会等への働きかけ

協議会会員団体のイントラネット、関連雑誌、フリーペーパー等での会員募集記事の掲載や、各団体のOB会等において歴史街道倶楽部会員の募集を行う。また、主要駅等での入会案内チラシの配架を依頼する。

### 4. Webによる積極的情報発信

Webサイト・SNSを有効に活用し、積極的な情報発信を行う。

### 5. ボランティアスタッフ

スタッフ会議への参加、会員誌『歴史の旅人』の編集企画、原稿執筆、イベント企

- 画、運営のサポートをしていただくボランティアスタッフを随時募集する。
- ・定例会議の開催：年4回開催（4月、7月、10月、1月）
  - ・フォーラム活動：歴史街道倶楽部会員が、自らテーマを設けて運営するグループであり、活動を通じて、口コミによるPR活動を展開していく。

予算 11,171千円 (R2:10,520千円)

## VI. 広 報

### (事業目的・方針)

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する。

令和3（2021）年度は、協議会設立30周年の節目にあたり、大きな広報機会と捉え、広報活動のさらなる充実と若年層の取込み等ターゲット層の拡大を図る。

### (事業項目)

#### 1. 広報活動のさらなる充実（30周年事業）

- (1) Instagram 投稿キャンペーンの開催
- (2) 歴史街道ガイドブック（キャラクター版）の制作・発刊
- (3) 歴史街道推進協議会設立30周年記念フォーラムの開催

#### 2. 情報発信

- (1) マスコミ、関係者向けの情報提供
  - ①メールマガジン「歴史街道なう」（毎月第4木曜日）の発信  
協議会会員団体担当者へ、毎月1回、活動状況についての報告メール
  - ②イベント等開催時のプレスリリース適時発信
  - ③歴史街道情報交換会（市町村共同事業）開催
  - ④自治体、関係団体の情報交換会等への参加
- (2) 一般向けの情報提供
  - ①メールマガジン「DO楽」（毎月第2木曜日）の発信（配信先約6,000件）
  - ②月刊「歴史街道」における広告頁記事掲載
  - ③CATVリレー番組「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」放映に対する協力
  - ④関西5私鉄の沿線情報誌等、会員企業の媒体での掲出  
阪急TOKK、JRふれあいハイキングだより等
  - ⑤歴史街道iセンター（情報発信拠点38カ所）および大阪国際会議場での掲出
- (3) 協議会会員団体の持つ媒体との連携  
会員団体支援のもと、各団体の持つ様々な媒体との連携広報活動を行う。
  - ①会員団体HPへの協議会ロゴ（含歴史街道計画を応援しています）の掲出依頼
  - ②各社のイントラネット、社内報、PR誌などでの協力依頼

(4) 歴史街道 i センターの活性化

歴史街道 i センターを歴史街道の情報拠点として、継続して活用する。  
定期的訪問等により情報発信ポイントとしての維持・活性化を図る。

※歴史街道 i センターの機能

- ・歴史街道情報の提供
- ・歴史街道の主催、後援等の事業パンフレット、チラシの配布
- ・歴史街道スタンプラリー景品の引き換え
- ・会員団体の観光パンフレットの配布
- ・歴史街道のぼりの掲出（協力いただける施設のみ）
- ・歴史街道案内映像の上映（協力いただける施設のみ）

(5) 会員団体等が実施する事業への後援・協力

会員団体、関係団体が開催する歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援・協力をを行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。

（目標件数 100 件以上 ※前年度 67 件）

(6) 歴史街道シンボルステッカーならびに Welcome ボードのメンテナンス

(7) マス媒体への企画提案

マスコミに対して、協議会の事業理解と共同企画の実現を働きかける。

### 3. 広報ツールの強化

(1) 協議会ホームページの有効活用

事業進捗に応じたリアルタイムの更新、地域の歴史文化情報の継続的発信を行う。

(2) 多言語化対応動画の制作・活用

- ①YouTube「旅の星」のライブラリーの充実
- ②歴史街道推進協議会公式 YouTube チャンネルの活用

(3) デジタルネットワーク型広報の強化

Facebook、Instagram、メールマガジンの継続

(4) 広報ツールの作成、展示・配布

- ①外国語版関西世界遺産パンフレットの制作（関西広域連合共催）
- ②ウェブ版「歴史文化遺産の楽しみ方 in 関西」の改訂

### 4. ターゲット層の拡大（若年層への積極的なアプローチ）

(1) マイクロツーリズム（まち歩き）推進

各地域の観光ボランティアガイドや地域活性化に取り組んでいる団体等と連携し、各地の「まち歩き」活動を推進する。

(2) ゲームオペレーションの試行

性別を問わず若年層にも人気拡大中の「謎解きゲーム」の歴史街道版を試行し、歴史街道事業領域広域での周遊を目指す。

(3) フォトログイニングイベントへの協賛

## 5. 首都圏広報の強化

新型コロナウイルスの影響を考慮しつつ、フォーラムや展示会の定例開催や広報物等を定例配布することで、首都圏での情報発信力を高める。

- (1) 歴史・文化フォーラムの開催
- (2) 東京都立中央図書館（東京都港区南麻布）との共催事業
- (3) 阪急たびコト塾でのセミナー開催

予算 11,800 千円 (R2:8,160 千円)

## VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施

観光庁を始めとした行政・各種財団等が公募する受託事業、助成金事業等の獲得に取り組み、事業化を図る。

予算 500 千円 (R2:500 千円)

## VIII. 協議会運営

(事業項目)

### 1. 組織体制の強化、会議体運営

- (1) 協議会事務局組織体制の強化
  - ・事務局スタッフの充実強化
  - ・会員企業等へ出向職員要請を行い、事務局機能の強化を図る。

### (2) 会議体運営

- ①総会・理事会 1回(6月7日(月))
- ②幹事会 1回(5月18日(火))
- ③専門部会 適宜
- ④全体会議 2回(9月・2月を予定)
- ⑤勉強会 適宜

※オンライン会議システムと併用して開催

予算 300 千円 (R2:400 千円)

### 2. 事業推進

I～VIの事業を推進する。

予算 250 千円 (R2:300 千円)

### 3. 会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大

- (1) 法人会員の拡大に取り組む。
- (2) 会員との交流の機会を上げ、法人会員との連携・協力を努める。

(3) 会員を対象とした勉強会や現地見学会等の充実を図る。

現地見学会の実施

1回(下期を予定)

予算 300千円 (R2:300千円)

#### 4. 要望・提案活動への取り組み

(1) 歴史街道の理念に沿った事業への広報協力金の拡大や公募事業等への積極的な取り組みを行う。

(2) 歴史街道計画の推進に必要な、国・自治体・企業等との連携事業については、関係団体に積極的に働きかけ、事業の推進にあたる。

(3) 「企画提案型事業」については、会員および関係団体を中心により積極的に企画・提案を行う。

(4) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスターズゲームズ2021、2025年大阪・関西万博開催に向け、インバウンドを意識した企画提案や運営に積極的に協力していく。

(5) 一般社団法人関西観光本部への参画  
関西広域での観光客誘致の推進を目的とした広域連携DMO「関西観光本部」に官民連携団体として参画していく。

(6) 文化庁の京都移転に伴う関西全体での気運醸成のための企画について、関西広域連合や関西経済連合会等と連携し、積極的に取り組んでいく。

予算 50千円 (R2:50千円)

#### 令和3年度 事業支出予算(案) (単位:千円)

I	メインルート事業	7,200
II	ネットワークエリア事業	400
III	日本文化体感プログラム事業	14,124
IV	フォーラム、展示事業	2,485
V	歴史街道倶楽部事業	11,171
VI	広報	11,800
VII	各種の受託研究・受託事業など	500

計 47,680

VIII-1	組織体制の強化、会議体運営	300
-2	事業推進	250
-3	会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大	300
-4	要望・提案・連携活動への取り組み	50

計 900

合計 48,580

(R2: 38,350)

# 令和3(2021)年度収支予算書

令和3(2021)年4月1日から令和4(2022)年3月31日まで

(単位:円)

科 目	3年度予算額(a)	2年度予算額(b)	増減(a-b)
<b>I. 事業活動収支の部</b>			
<b>1. 事業活動収入</b>			
①会 費 収 入	37,135,000	41,365,000	△ 4,230,000
会費収入	27,855,000	30,845,000	△ 2,990,000
個人会員会費収入	9,280,000	10,520,000	△ 1,240,000
②事 業 収 入	500,000	500,000	0
受託事業収入	500,000	500,000	0
③負 担 金 収 入	14,650,000	17,900,000	△ 3,250,000
広報協力金収入	13,000,000	16,250,000	△ 3,250,000
共同イベント負担金収入	1,650,000	1,650,000	0
④雑 収 入	13,035,000	7,725,000	5,310,000
<b>事業活動収入計</b>	<b>65,320,000</b>	<b>67,490,000</b>	<b>△ 2,170,000</b>
<b>2. 事業活動支出</b>			
①事 業 費 支 出	59,230,000	50,940,000	8,290,000
会 議 費	850,000	1,000,000	△ 150,000
要 望 活 動 費	50,000	50,000	0
広 報 費	47,680,000	37,300,000	10,380,000
給 料 手 当	7,900,000	9,500,000	△ 1,600,000
福 利 厚 生 費	1,930,000	2,300,000	△ 370,000
旅 費 交 通 費	820,000	790,000	30,000
②管 理 費 支 出	13,670,000	14,770,000	△ 1,100,000
給 料 手 当	0	0	0
福 利 厚 生 費	170,000	250,000	△ 80,000
旅 費 交 通 費	580,000	740,000	△ 160,000
通 信 費	600,000	800,000	△ 200,000
消 耗 品 費	3,750,000	4,120,000	△ 370,000
交 際 費	0	0	0
新 聞 図 書 費	0	0	0
賃 借 料	7,320,000	7,320,000	0
水 道 光 熱 費	280,000	280,000	0
租 税 公 課 費	350,000	500,000	△ 150,000
事 務 雑 費	620,000	760,000	△ 140,000
<b>事業活動支出計</b>	<b>72,900,000</b>	<b>65,710,000</b>	<b>7,190,000</b>
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 7,580,000</b>	<b>1,780,000</b>	<b>△ 9,360,000</b>
<b>III. 予備費支出</b>	<b>42,819,513</b>	<b>43,012,242</b>	<b>△ 192,729</b>
<b>当期収支差額</b>	<b>△ 50,399,513</b>	<b>△ 41,232,242</b>	<b>△ 9,167,271</b>
<b>前期繰越収支差額</b>	<b>50,399,513</b>	<b>41,232,242</b>	<b>9,167,271</b>
<b>次期繰越収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>



## 第10期中期計画（基本方針）

### 1. 基本方針

新型コロナウイルスによる新しい常態（ニューノーマル）を前提とし、歴史街道計画の原点にある考え方と同推進活動30年のこれまでの蓄積を活かしつつ、EXPO'25での情報発信及び次の時代へと続く永続的持続可能な活動を目指す。

#### ◆◇歴史街道計画の原点（マスタープランで掲げた目的：1992年4月）◇◆

- 1) 日本の歴史文化や日本人の知恵、ここを世界に向けてアピールし、多くの人々に訪れてもらうことによって、日本の「よさ」や特徴を理解してもらうこと。（**日本文化の発信**）
- 2) 日本の多くの人々に、より楽しく歴史文化に接し、そのよさを再認識してもらうこと。（**歴史文化を活かした余暇づくり**）
- 3) 歴史街道各地の歴史文化資源を最大限に活用し、それにふさわしい地域づくりを、官民が力を合わせ複合的に推進していくこと。（**歴史文化を活かした地域づくり**）

※歴史街道計画は・・・（中略）・・・**バラバラに実施されてきた諸事業をメインルートを中心にネットワーク化を図り、近畿全体への文化誘客効果を創出していこう**というものである。

## 第10期中期計画（考え方）

### ■ 3カ年通期テーマ

次の時代へと続く永続的持続可能な活動※へのトランスフォーメーション

※歴史街道計画推進活動：歴史街道各地の歴史文化資源を最大限に活用し、それにふさわしい地域づくりを、官民が力を合わせ複合的に推進する広域官民連携活動

#### － 背景 －

◆**コロナ禍による新たな状態（New Normal）**

◆**30年の大きな節目／転換期 ⇒ 新しい時代への変化適応**

・CHANGE → CHANCE → CHALLENGE

・トランスフォーメーション → 仕事のやり方、組織の在り方、若年ファン層開拓etc.

### ■ 取組方針（案）

新しい時代に対応するための

1. 広報活動の更なる拡充（時代に合った広報活動）

2. ターゲット層の拡大（若年層への積極的なアプローチ）

3. デジタル化施策の導入

\*当該期間をⅠ. ウイズコロナ Ⅱ. アフター・ポストコロナに区分しての方策を講じる。